

Market Flash

2021年1月18日(月)

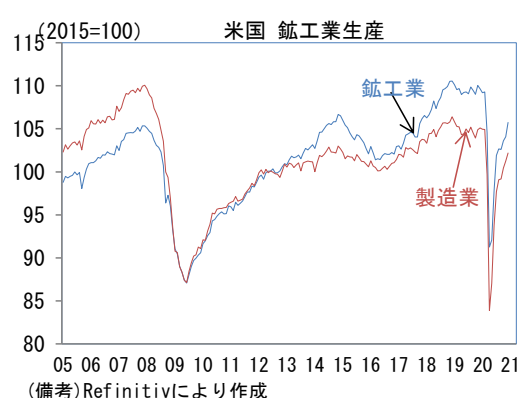
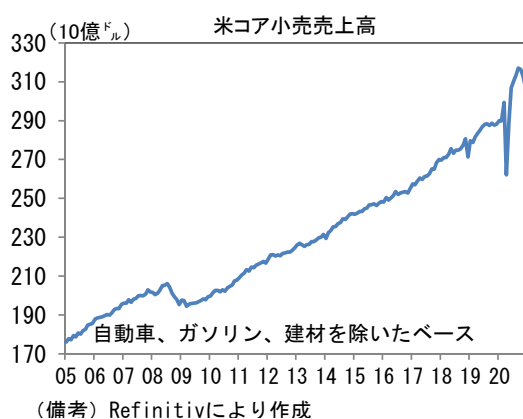
先行指標としてのイスラエル ワクチン接種のトップランナー

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査
主任エコノミスト 藤代 宏一 (TEL:050-5474-6123)

- ・日経平均は先行き12ヶ月28,000程度で推移するだろう。
- ・USD/JPYは先行き12ヶ月105程度で推移するだろう。
- ・日銀は現在のYCCを長期にわたって維持するだろう。
- ・FEDはゼロ金利下で資産購入を継続するだろう。

<#イスラエル#ワクチン#コロナ感染状況>

- ・前日の米国株は下落。NYダウは▲0.6%、S&P500は▲0.7%、NASDAQは▲0.9%で引け。バイデン次期大統領が発表した景気対策に対し市場参加者は「事実で売る」で反応した形。VIXは24.3へと上昇。社債市場はIG債（投資適格）、HY債（投機的格付）が共に軟調。経済指標は12月コア小売売上高が前月比▲1.9%と3ヶ月連続で減少。家具、電子機器等はこれまで大幅に増加してきた反動もあり、足もとで減少基調にある。もっとも前年比では+6.4%と堅調。マクロの家計収入がパンデミック前より増加していることもあり高水準を維持。12月米鉱工業生産は前月比+1.6%、製造業生産は+0.9%と堅調であった。自動車生産は▲1.6%（11月は+5.0%）と反動減となったものの、自動車を除いたベースでは+1.1%と強く伸びた。生産全体の前年比伸び率は▲2.8%と、なおマイナスもプラス圏が視野に入っている。

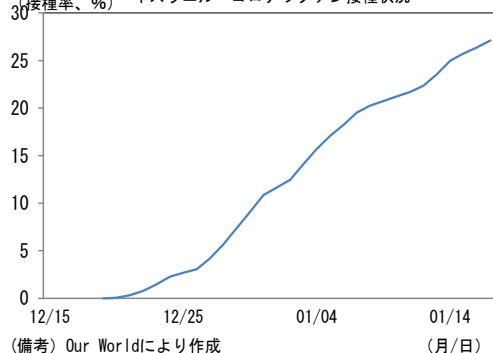


- ・米金利カーブはブル・フラット化。2年は0.133% (▲0.6bp)、10年は1.084% (▲4.6bp)、30年は1.833% (▲3.9bp)で引け。予想インフレ率(10年BEI)は2.089% (▲0.2bp)へと小幅低下。為替(G10通貨)はUSDが全面高。JPYも同程度に強かったが、その反面EURは下落。USD/JPYは103後半で一進一退、EUR/USDは1.21を割れた。コモディティはWTI原油が52.4ドル (▲1.2ドル)へと小幅低

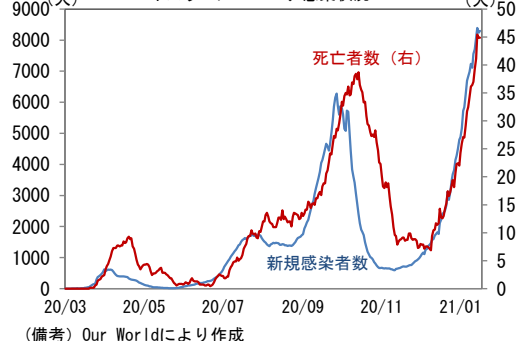
下し、銅も7949.0^{ドル} (▲99.5^{ドル})へと低下、金も1829.9^{ドル} (▲21.5^{ドル})へと下落した。安全資産「金」と景気の強さを反映する「銅」の相対価格(銅/金)は小幅低下。ビットコインは横ばい圏で推移。

- 2020年12月から欧米を中心にワクチン接種が進行中。各国とも医療従事者や高齢者を優先的に順次拡大中であるが、現在のところ人口100人あたりの接種率は英国が6.3%、米国が3.7%、ドイツが1.3%に留まる(データソースはOur World)。そうした中、ワクチン接種でトップを走るイスラエルの動向に注目したい。12月19日に接種が開始され、年始時点で約100万人、直近は約235万人が接種完了。接種率は27.1%と群を抜いて高い。接種率は1日あたり1%に迫る勢いで上昇している。
- もっとも、現在のところ新規感染者数や死者数といった数値は増加傾向にある。ワクチン接種率が30%に迫る中でも感染者数、死者数といった重要指標(の絶対値)に大きな変化はみられず、感染の封じ込めが一筋縄ではいかないことを物語っている。ただし、新規感染者数の前週比伸び率は12月後半から低下傾向にあり、間もなく絶対数は減少傾向に転じそうな状況である。当レポートではワクチン接種と感染者数の因果について言及・考察・予想を避けるが、今後、欧米諸国や日本のワクチン接種率が上昇する過程では、イスラエルの事例が参考にされるだろう。イスラエルの感染状況が好転すれば、金融市場でコロナ終息を織り込む動きが加速する可能性も十分に考えられる。

(接種率、%) イスラエル コロナワクチン接種状況



イスラエル コロナ感染状況



(前週比、%) イスラエル 新規感染者数増減



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

